

2021年度事業報告書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

(特定非営利活動法人輝きネットワーク)

1 事業の成果

昨年から引き続き新型コロナウイルス感染症流行の波が何度もおこり、山形県も感染者が増え、蔓延防止措置が適用された。職員のワクチン接種を優先的に行ったり、感染症を防ぐ様々な対応を続けながらメディアかがやき（就労継続支援B型）を運営しなければならなかった。

幸いメディアかがやきの職員、利用者及び家族に感染者は出ていないが、学校などの休校措置のため、小学生の子どもを持つ職員、利用者が休まざるを得ない事態も起こった。

助成金を活用してパーテーションを買い替えたり、マスクの配布を行うなどの対応をして、職員、利用者の皆さんの協力によりなんとか感染を防いできた。

2020年度には1日の利用状況が平均12.8人までになったが、2021年度は入院やけがなどでお休みする方が多数出て、平均利用人数が10.5人まで落ち込んでしまった。長く利用されてきた方は体調の変化、病気などの理由で利用が終了になったり、日数が減った方がいた。一方最近利用開始された方はだんだんと日数を増やしてきている。2021度としては減ってしまったが、今後は増えていくと思われる。しかし、体調変化が大きい精神障害の方が増えているので、利用日数が安定する様に、より一層細やかな支援が必要となってきている。

尚、1名が就労継続支援A型事業所に移行した。

平均工賃による報酬区分となり、工賃向上が求められる中、昨年度は工賃変動積立金を取り崩して、平均工賃1万以上を維持したが、今年度は昨年度よりはパソコンのデータ入力等の作業が少し回復してきたので、なんとか工賃変動積立金を取り崩さず、平均工賃1万円以上を維持できた。しかし結果的には令和2年度より平均工賃は少し下がってしまった。

- 1、①スキルアップを図る事業ではアビリンピックに取り組み、初めての写真撮影競技で全国大会に2名が出場し、1名が銀賞を受賞した。また、県大会で初めてアビリンピックワード初級に参加した方も技能賞を受賞し自信になったようだ。
②消費生活センターから講師を招いて、インターネット上で起きる消費者トラブルについて講習会を行った。

- 2、 利用状況としてはパソコン部目標9人に対し8.1人、軽作業部目標4人に対し2.4人、合わせて年間で10.5人であった。

マニュアル作成では、エクセルの会計システムの年度更新作業マニュアルを作成してみた。

軽作業ではリンベルのシール貼り作業を新たに受注した。

新商品開発としてはクイリングを使った祝い袋制作に取り組んだ。ちょうど保健所から献血の記念品にと発注があり、これまでの一筆箋やハガキとともにたくさん買い上げてもらった。

メディアかがやき単独での楽天市場での仕入販売では、さくらんぼ・シャインマスカットが霜の被害のため収穫量が少ない中、なんとか仕入に協力いただいた。たくさん仕入れることが難しい状況で、すぐに注文がうまってしまった。野菜セットは昨年より競争が激しくなったためか、あまり注文が入らず、新たに取組んだセイサイは注文が1件だった。新たに農地を借り入れ、排水のための明渠工事を行って、野菜の栽培を始めた。まだ畑としては水はけが悪いところが多いが、じゃがいも、豆、セイサイ、カブなどの栽培を始めた。野菜セットに少し活用できた。秋には農業実践研修で作った白菜、大根などとともに野菜を販売した。

- 3、 新型コロナ感染症流行対策の臨時的措置として在宅利用を認める通知があり、すでに取り組んでいた1名の他に、基礎疾患のある方1名に継続的に取り組んでもらった。また、家族が感染拡大地域から帰省した際や、家族が濃厚接触者の疑いで自宅待機の期間にも在宅利用を認めてもらったケースもあった。4人延べ148日の在宅利用支援を行った。これまでテレワーク支援を継続してきたことが活かされることとなった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の 事業名	事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者の人数	受益対象者 の範囲及び 人数	支出額 (千円)
小規模作業所・ 障害福祉サー ビス・地域生活 支援事業等を 設置運営する 事業	就労継続支援 B型事業を運 営した。	年間開所 240日	メディアか がやき	5名	26名	25,038